



笑いで健康に

教育“口”演会・2/20

No.6

教育“口”演会「笑いと免疫力 そして健康」が上高自治振興センターで開催されました。笑って免疫力を高め、病気に打ち勝ち健康になることを目的に庄原市PTA 連合会高野支部が主催しました。

約70人の来場者は、落語家のほかに数々の職をもち、医学博士でもある春雨や落雷さんによる古典落語、健康講話により笑いの不思議な力について学びました。当日は氷点下という寒さでしたが、会場は終始笑い声があふれ、あたたかい空気に包まれました。

同連合会高野支部会長前田仁さんは「寒い時期気持ちが下向きになりがちだが、笑うことで心も体も元気になってほしい」と話していました。



▲古典落語を披露する春雨や落雷さん

地域の新しい交流イベント

西城自治振興センターフェスティバル・3/10

No.8

西城自治振興センターで第1回目となる交流イベント「西城自治振興センターフェスティバル」が開催され、約350人が訪れました。

当日は、同センター1階で地域住民が考えたオリジナル丼のHIBÅ ビビンバ DOŃ (給食や)や極ネギセリ丼 (八鳥親睦会)の販売のほか、焼きそば、フランクフルト、ポップコーン (中野1区)などが販売されました。2階のアトラクションコーナーでは、丸太の早切り競争やストラックアウト、段ボール迷路などが行われ、来場者はさまざまな催しに参加しフェスティバルを楽しんでいました。段ボール迷路の参加者は、「迷路に隠されたカードを探すのが難しかった。全部見つかったよかった」と話していました。



▲熱い戦いが繰り広げられた丸太の早切り競争

異文化体験などを日本語で発表

日本語スピーチコンテスト・2/18

No.5

口和自治振興センターで、しょうばろ国際交流協会が主催する第16回日本語学習者による日本語スピーチコンテストが開催されました。市内や近隣市町から集まった6カ国14人が約110人の聴衆を前に、日本での生活や文化の体験などについて日本語で発表しました。

金賞と会場賞をダブル受賞したインドネシア出身のマルダ・ディアン・ブトリさんが、「インドネシアには“成功は空から降ってこない”ということわざがある。日本人はこのことわざのように、時間を大事にし、努力してきたから大きく発展してきた。インドネシアに帰ったら日本人の姿を伝えていきたい」とスピーチすると、会場から大きな拍手が送られました。



▲気持ちのこもったスピーチをするマルダ・ディアン・ブトリさん

地域の支えあいづくり

第9回くちわのつどい・3/3

No.7

口和自治振興区、庄原市社会福祉協議会などが主催する第9回「くちわのつどい」が開催され、約100人が参加しました。この集いは、住み慣れた地域で安心して暮らすために市民一人一人が何をすべきかを考え、地域の取り組みのきっかけとして広く住民意識を高めることを目的としています。

集いでは、口和中学校生徒会執行部が「職場体験学習の取り組み」について、金田自治会と竹地谷自治会が「防災訓練、デイホーム事業」について事例発表し、総領自治振興区事務局長の矢吹正直さんが「総領のささえあいづくり 連携と協働そして統合に向けて」と題し講演をしました。会場には各種バザーコーナーなどがあり、来場者でにぎわいました。



▲取り組みを発表する口和中学校生徒会執行部の皆さん

文化財を活用し神楽公演

雨水神楽・2/18

No.2

国登録有形文化財の庄原市三楽荘で、地域の安泰と発展を願う「雨水神楽」が開催され、国重要無形民俗文化財の比婆荒神神楽が披露されました。

「猿田彦の舞」をはじめとする「七座神事」や、「国譲りの能」の演目が披露されたほか、大黒様による福餅まきや甘酒の振る舞いも行われ、来場した地域住民や県内外の神楽ファン約70人は勇壮かつ華麗な神楽の舞いに酔いしれました。

参加者は、「文化財の指定を受ける神楽を身近で見ることができ、その迫力に驚いた。神楽の中では話のかけあいが滑稽な場面もあり、とても楽しむことができた」と話していました。



▲大國主の命に国を譲るよう交渉する経津主・建御雷の命(国譲りの能)

子どもたちの俳句作品の歴史

特別号「ひよめき collection」完成

No.4

比和自治振興区は、平成18年から毎月、回覧文書「ヒワちゃん俳句工房」で地域の小中学生の俳句作品を紹介し、紹介した作品をまとめて年に1回「ひよめき」という冊子を作成しています。毎年子どもたちは、自分の作った俳句が形として残る冊子の作成を楽しみにしています。

このたび、12年分の冊子をまとめた特別号「ひよめき collection」が作成されました。「ひよめき」の編集をしている神山姫奈さんは、「これまで多くの子どもたちの俳句を掲載してきたが、特別号が作成できるほどの作品数になったことは感慨深い。これからも、子どもたちの感性あふれる俳句をたくさん掲載していきたい」と話していました。



▲「ひよめき collection」を手にして喜ぶ子どもたち

良質飼料で比婆牛の産地を強化

J A全農ひろしま和牛TMRセンター竣工式・3/22

No.1

元広島県立七塚原青年の家の敷地に整備された「J A全農ひろしま和牛TMRセンター」の竣工式が行われました。この施設は、和牛用のTMR (理想的な栄養バランスを備えた混合飼料)を製造する工場、飼料の原料として、庄原産の飼料用稲や飼料米も使用されます。

TMRを利用することで、餌やりなどの労力軽減が図られ、牛の発育や肉質の向上も期待されます。当初1年間は試験製造とTMRの給与試験が行われ、2年目以降から市内の農家もTMRを利用できるようになる予定です。J A全農ひろしまの水永祐治県本部長は、「引き続き関係者で連携し、TMRの活用を進め、比婆牛の振興に寄与したい」と話していました。



▲竣工式の後で工場の見学会が行われた

里山に春の便り

「節分草」自生地公開・2/17-3/11と節分草祭・3/11

No.3

総領町内7カ所で、市天然記念物「節分草」の自生地が公開されました。気候の影響で例年より開花が遅れましたが、公開期間の終盤には各所で花が見頃となりました。期間中は、総領小学校3・4年生によるボランティアガイドや、絵手紙教室、寄せ植え教室などが行われ、日曜日には里山総領体育館のクラフト細工や総領中学校生徒が運営するキッズコーナーで親子連れが楽しんでいました。

節分草祭では、総領中学校生徒によるボランティアガイドが行われたほか、会場の道の駅リストア・ステーションに地域団体が出店し、来場者でにぎわいました。また、自生地を巡るノルディックウォーキング大会も同時開催され、訪れた人は一足早い里山の春を満喫していました。



▲ボランティアガイドが節分草や関連イベントなどについて説明